

## 目標達成計画

作成日：平成27年10月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	これまで非常時の備蓄や防災訓練等は行ってきたが、さらに災害時を想定した全職員での食料品や資機材など備蓄品の管理とともに、より実践的な調理訓練や断水・停電想定での訓練等災害対策を深化していく必要がある。	①備蓄品の再検討と明確化、管理サイクルの明確化を図る。 ②災害時を想定した実践的な訓練実施と備蓄品管理との連携を図る。	①各種災害を想定し、必要な備品の再検討(備蓄品の種類と数、管理サイクルの洗い直し)を行い、分かりやすく表記する。 ②各種災害を想定しながら、定期的に非常食の調理・試食等の訓練、その他断水時や停電時を想定した訓練を実施する。	3ヶ月
2	33	看取りの状態において、これまで職員がその状況に応じて入居者様の思いを汲み取る努力をしてきたが、その関わりを踏まえつつさらに深化させ、利用者様とご家族の思いが一層反映された時間を通じて頂けるようにする必要がある。	①看取りの状態となった際、最期の瞬間まで利用者様の意思決定がさらに尊重されるようにする。 ②看取りの状態となった際、最期の瞬間までご家族の思いをさらに尊重、反映するようにする。	①入居の際に、看取りの状態となった時に、誰に会いたいのか、どのように毎日を過ごしたいのか、最期は誰に傍にいて欲しいのか、など入居者様本人が判断できる段階で、ご家族と一緒にさらに細かく意思確認を行う。 ②入居の際の意思確認内容の取り組みとともに、随時利用者様、ご家族の意思確認を行い、さらにきめ細やかな看取り介護を行う。	6ヶ月
3	27	入居者様の日々の介護記録について、入居者様の状況、状態変化が把握できるように記録してきたが、より的確なポイントを押さえるとともに、合理的・効率的な記録としていく必要がある。	①さらに的確なポイントを押さえた介護記録とする。 ②介護記録に係る平常時の時間短縮を図る。 ③状態変化時の介護記録が一層的確化するよう図る。	①記録書式の見直しを行う。 ②記録についての勉強会を行い、意識統一とレベルアップを図る。 ③各種研修会、勉強会への参加の成果について、一層の情報共有を図る。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の欄を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。